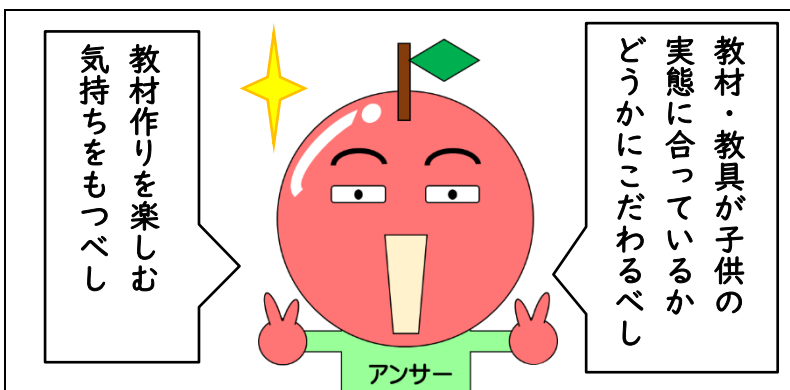
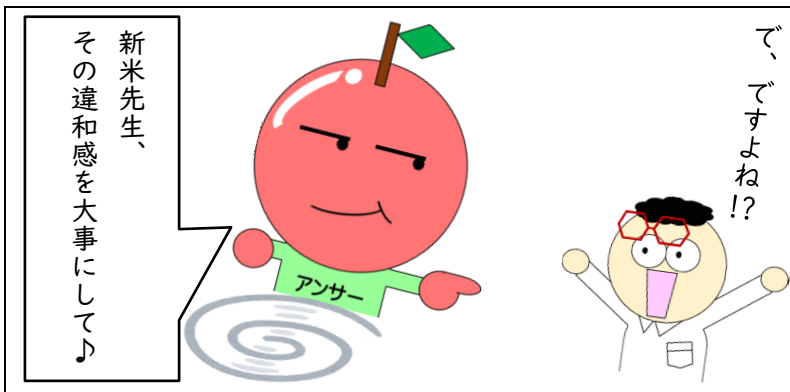
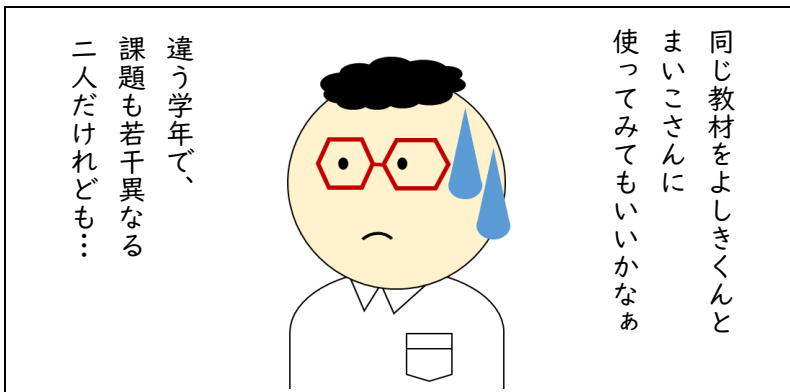
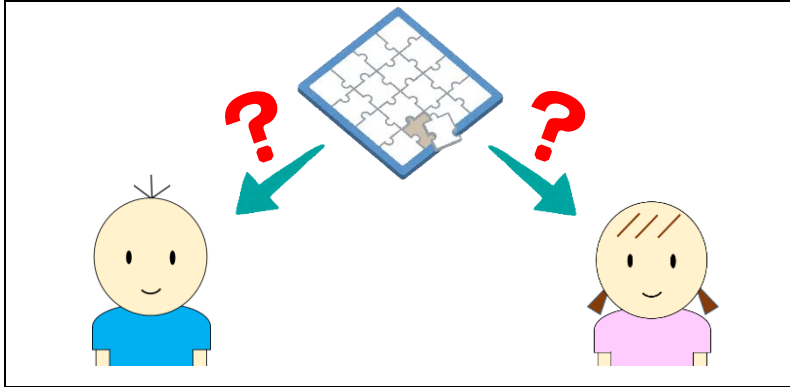


Q18. 子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。

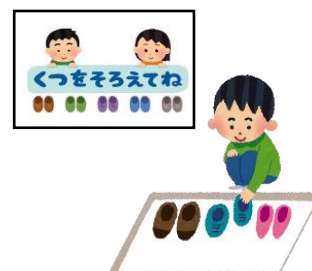


教材・教具が子供の実態に合っているかどうかにかかわる

- 子供の障害の状況や能力、特性、発達段階に合った教材・教具を考え、それが授業の目標達成に必要な物かどうかを吟味します。

子供の障害の状況や能力、特性、発達段階を踏まえた上で、授業の目標を達成するために、「必要な教材・教具は何だろう?」と考えることが、教材研究において不可欠です。例えば、教材・教具が子供の発達段階に合っていない場合、「うまく使えず子供が困っている」「初めて使うのに、すぐできてしまい飽きている」といった様子が見られることがあります。

特別支援教育における教材・教具というと、高価な市販の教材・教具や専門的な知識・技能が必要な自作教材をイメージされる方が多いかもしれませんが、決してそればかりではありません。教材・教具には、写真(絵)カードや学習プリント、使いやすさに配慮された市販の筆記用具、ICT 機器等も含まれます。そのため、「何か作らなきゃ…。でも時間が…。」と無理に自作にこだわらず、身近にある物を活用する視点も大切です。どのような物であれ、子供の実態に合っているかどうかが最も重要です。



教材作りを楽しむ

- 子供が活用している姿や反応をイメージしながら教材を作成しましょう。

教材・教具を作成する際は、子供が活用している姿や反応をイメージしながら作成することを意識しましょう。教材を作成する際のポイントは次のとおりです。

教材作成のポイント

- 「できた」という達成感があり、またやってみたいと思うようなもの
- 始めと終わりが分かりやすく、結果を確認しやすいもの
- 興味・関心をひくもの
- 使用しても壊れにくく、安全に使用できるもの



また、これからはアナログ教材だけではなく、タブレット PC 等で使用するデジタル教材を作成することもあるかと思います。その際、担当が替わったら使えないような「高度で複雑な使い方」にならないように注意しましょう。

ぜひ、教材・教具を使った子供の姿やエピソードを教員間で共有しましょう。それが、「私の学級の子供に使う場合は、こうしようかな?」「今度は、こういうところを改良してみよう」など、教材・教具の改善に向けたアイデアを生みます。このような地道な取組が子供の成長につながるので、教材作りを楽しむ気持ちを忘れずに!

【文献】橋本正巳編著(2016): 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック~マルチアレンjingサポートの観点から~。社会福祉法人全国心身障害児福祉財団。
茨城県教育研修センター特別支援教育課(2019): 特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】第3版。

よく一緒に読まれている Q

Q11 「[自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか?](#)」

[目次に戻る](#)